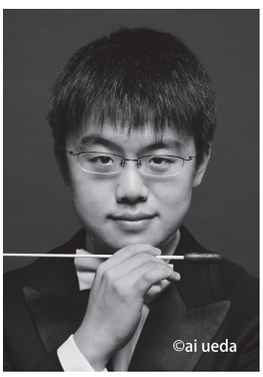
Profiles



太田 弦［指揮］

1994年北海道札幌市出身。幼少の頃より、チェロ、ピアノを学ぶ。
東京藝術大学音楽学部指揮科を首席で卒業。学内にて安宅賞、同声会賞、若杉弘メモリアル基金賞を受賞。同大学院音楽研究科指揮専攻修士課程を修了。
2015年、第17回東京国際音楽コンクール〈指揮〉で2位ならびに聴衆賞を受賞。第30回渡邉暁雄音楽基金音楽賞受賞。2025年、第 23 回 齋藤秀雄メモリアル基金賞を歴代最年少で受賞。
指揮を尾高忠明、高関健の両氏、作曲を二橋潤一の各氏に師事。山田和樹、パーヴォ・ヤルヴィらのレッスンを受講する。これまでにNHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、群馬交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団などを指揮、今後さらなる活躍が期待される若手指揮者筆頭。2019年4月から2022年3月まで大阪交響楽団正指揮者を務めた。2023年4月より仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者、2024年4月より九州交響楽団首席指揮者。
2026年4月より福岡国際音楽大学客員教授に就任。
2024年7月、同年4月に九州交響楽団首席指揮者就任記念コンサートとして開催した第420回定期演奏会のライブ録音のCDがオクタヴィア・レコードより発売、好評を博している。2026年7月には、九州交響楽団と2枚目のライヴ録音CD「マーラー：交響曲第9番ニ長調」も発売された。



井上詩紀［ソプラノ］

愛媛県出身。京都市立芸術大学卒業後渡欧し、ジュネーヴ高等音楽院修士課程、スイス・オペラ研修所を修了。ナタリー・シュトゥッツマン氏に師事。2018年スイス・ビール／ゾロトゥルン歌劇場《ミトリダーテ》イズメーネ役で欧州デビュー。2022/23年、ハンブルク州立歌劇場《魔笛》夜の女王役で出演。2024年ガブリエラ・ベニャチコヴァー国際声楽コンクール優勝、スロヴァキア国立歌劇場賞受賞。近年はスロヴァキア国立歌劇場ニューイヤーコンサート、ペーター・ドヴォルスキー・フェスティバル開幕ガラにソリストとして出演。第21回松方ホール音楽賞（オペラ部門）受賞。NHK-FM「リサイタル・パッシオ」出演。



中島康博［テノール］

京都府出身、10歳よりモルゲングランツ少年少女合唱団にて活動、卒団後は京都府立西城陽高校合唱部に在籍。大阪芸術大学卒業、同大学院修了。同大学院後期博士課程単位取得。関西フィル、大阪交響楽団、岡山フィル、他数多くのオーケストラと「第九」のソリストにて出演。オペラ「魔笛」タミーノ、「ジャンニ・スキッキ」リヌッチョ、「蝶々夫人」ピンカートン、主要なソリストとして出演。また宗教曲においてJ.S.バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」エヴァンゲリストとしても好評を得ている。なわて混声合唱団、アンサンブル風、関大グリー、各ヴォイストレーナー。大阪キリスト教短学非常勤講師。N Voice office代表。関西二期会会員。



八木寿子［メゾ・ソプラノ］

福岡教育大学卒業、京都市立芸術大学大学院を首席にて修了。第81回日本音楽コンクール入選、　第17回友愛ドイツ歌曲コンクール第1位、第9回東京音楽コンクール第1位など受賞多数。NHK-FM「リサイタル・パッシオ」に出演、「印象に残る演奏」と再度取り上げられた。日生劇場「ヘンゼルとグレーテル」ゲルトルート、びわ湖ホール「こうもり」オルロフスキー、「ローエングリン」オルトルート、「ばらの騎士」オクタヴィアンなどでオペラ出演。また、バッハ「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、ヴェルディ「レクイエム」など多くの作品でソリストをつとめ、音楽誌などで高い評価を得ている。京都女子大学非常勤講師。



萩原寛明［バリトン］

京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。ウィーン国立音楽大学卒業。ウィーンではヴァルター・ベリー、ヒルデ・ツァデックの各氏に、また歌曲演奏解釈をヘルムート・ドイチュ、チャールズ・スペンサーの各氏に師事。オペラでは、「ドン・ジョヴァンニ」のタイトルロールをはじめ、「フィガロの結婚」のアルマヴィーヴァ伯爵、「魔笛」パパゲーノ、「カルメン」エスカミーリョ、「メリー・ウィドウ」ダニロ・ダニロヴィッチ伯爵等、多数出演。また第九や宗教曲のソリストとしても定評があり、バロック作品から現代曲までレパートリーは幅広い。現在、関西二期会理事。神戸女学院大学、京都教育大学各講師。日本シューベルト協会会員。